



No.105 2009.3.

発行 真言宗豊山派
北田山宝泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真琴

花祭り 天上天下唯我独尊

昔もむかし三千年花咲き匂う春八日
響き渡ったひと声は天にも地にも我一人

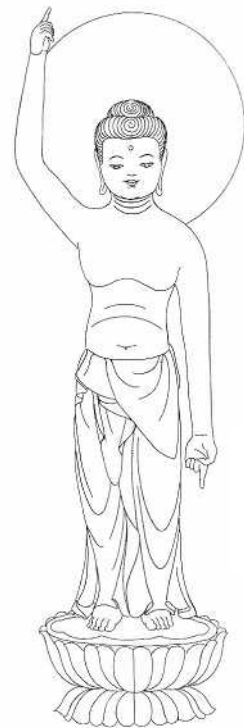
敗戦後まもなくから師僧（父親）は幼児教育の重要性を想い、住職しているお寺に、昭和20年代後半、幼稚園を創立、母はその先生で私は第2期生でした。春になるとオルガンの伴奏に合わせて歌ったこの歌は今になっても忘れません。4月8日は花祭り、誕生仏に甘茶を注ぎお釈迦様の誕生を祝う仏教徒にとって喜びの日で、仏誕会、灌仏会（甘茶を注ぐことから）とも言われます。

さて、ことしから宝泉寺でも花御堂を飾り、甘茶を注ぐ花祭りを再興することになりました。

4月5日（日）から8日（水）まで
本堂正面にお飾り致しますので
ご自由にお参り下さい。
甘茶やお菓子を用意してあります。

再興というのも実は宝泉寺でも以前はやってきたからなのです。古く傷んでしまった花御堂と金属製の誕生仏がのこされており、ご近所には元気にその事実をご記憶の方もおられます。ただ残念なことに最後がいつだったかはわかりません。誕生仏には「北田新田 宝泉寺」と刻まれていることから少なくとも明治以前の作であることは間違いありません。（富岡村あるいは北岩岡の地名が使われていない）

ところで「花祭り」、世界の偉人や聖人にはとてつもない伝説がつきものようですが、仏伝ではお釈迦様の誕生の際、天から龍が甘露の雨を降ら



誕生仏

せたとあり、このことが甘茶を注ぐ由来です。そして右手で天を、左手で地をさして「**天上天下・唯我独尊**」(てんじょうてんげ・ゆいがどくそん)

と第一声を発せられたといわれます。唯我独尊を「唯、我のみ一人尊い」と、うぬぼれや自己主張をいうものではありません。仏教では誰しも仏になれる可能性を秘めていると説き、いわばその核を「**仏性**」といい、みんなが平等に仏性をもつことを意味しています。そのことを「私が仏なら、あなたも仏」という相互関係を常に心せよとの教えと解釈されています。家族や地域の生活などを考えれば、独立した個と個の関係は相互依存と考えてもいいのではないかと思います。山川草木悉皆成仏(るり光90号)を旨とする仏教の教えからいえば相互依存の関係は人だけにとどまらず自然や物にもいえるはずで、近年特に話題になっている地球温暖化や低い食料自給率などを考えるとき、自然や物をあまりにも無駄遣いしてしまう生活態度も振り返る必要があります。

一年をつうじていくつもの仏教行事がありますが、意味を深く考えるごとにお釈迦様や御大師様から「おまえはどうなんだ」と問いかけられているような気分になりますが、努力目標と考えてせめて意識はいつも高く持ちたいものと思っております。

ご詠歌

今月4日、豊山流大師講、創立60年を迎え「ご詠歌コンサート」が横浜で行われました。関東近県から同信同行の方々にホールはうまり、高らかに唱えられるご詠歌で満ちていました。今回は割り当てられた入場券も少なく、写経に集うメンバー数人との参加で、終了後、口々に「いいもんだね」と声が交わされました。

残念ながら宝泉寺のご詠歌は19年5月、メンバーの高齢化や体調などでその響きが途絶えてしまいましたが、副住職が新年度からの宗派講習会で資格取得を目指すことになりましたのでそう遠くない時期に皆様へ声をかけることができそうです。



雑木林

るり光、前号でお知らせした雑木林についてですが、お彼岸終了後に伐採することになりました。利用ご希望の方はぜひぜひお声をかけて下さい。これは自然破壊ではなくその有効的利用ですので・・・

副住職 雑記 ⑨ ニューヨーク旅行記 前編

2月上旬、かねてより憧れの地であったニューヨーク（以下NY）の中核、マンハッタン島へ友人と二人で旅行してきました。海外旅行なんていうとなんだか優雅な感じですが、3泊5日のいわゆる強行スケジュール格安プランってやつです。マンハッタンは山手線一周ほどの面積を持つ人工島で、冬場の気温は札幌のそれに近い値を示します。幸い私の滞在していた数日間は最高気温が10 まで上がる日もあり、快適に過ごすことができました。

突然ですが皆さんはNYと聞いて何をイメージするでしょうか。美味しい食事。最先端のファッション。ミュージカルやジャズをはじめ多種多様なアートから成る芸術文化。世界をも巻き込んだ金融危機。テロ。そしてオバマ新大統領に象徴される多人種社会等々。皆さんが想像された通り、良くも悪くもNYは多くの刺激で満ちあふれています。欲張りな私は、できるだけたくさんのNYの中身に触れてみたいと思い、観光は控えめに、ごく一般的な食事を楽しみ、ジャズのライブに聴き惚れ、メトロポリタン美術館に圧倒され、ウォール街に足を運び、グランドゼロ（飛行機墜落テロの起きた現場です）で祈りを捧げて参りました。また学生時代からジャズやソウルなど黒人層が主流の音楽が好きだったこともあり、住民の大半が黒人であるハーレムと呼ばれる街にも訪れてみました。基本的に単独行動、移動手段は徒歩と地下鉄でしたから、何をしてもドキドキの連続で特にハーレムの繁華街を一人で歩いていたときは、緊張からノドがカラカラになるほどでした（ハーレムに関して一言。ガイドでは昼間なら一人でも大丈夫とありますが、不慣れな方の一人歩きは避けた方が無難でしょう。私には少し早かったようです）。

これだけではナマグサ坊主のお気楽旅行記ですが（以前にもこんな事を書いていたような・・・）、実は本旅行の本当の（？）目的であつ



NY本願寺 中垣住職と

た仏教寺院訪問も、マンハッタンの北西に位置するその名もニューヨーク本願寺（以下NY本願寺）において、日曜礼拝に参加し、ご住職である中垣顕實さんとお会いするという形で達成することができました。アメリカでは日曜日に教会へ出

かけることが一般的ですが、信仰の対象が仏教であってもその習慣は変わらないようです。NY本願寺では日曜日の午前11時にもなると50人ほどの在米邦人をはじめ、白人、黒人といった多様な人種の信者が集まり、お経を唱え、中垣住職の説教に耳を傾けます(もちろん英語で私にはちんぷんかんぷんでしたが)。日本の年忌法要の風景と似てはいますが、それが毎週行われることと、さらに礼拝後、質疑応答タイムが設けられているところが、日本のそれと決定的に違うところでしょうか。

菩提寺の住職と悪い関係になりたくなければその住職に仏教の質問をしてはいけません。こんな笑えない冗談が、日本のお寺周辺には昔からあるそうです。アメリカ人に比べ、日本人が奥ゆかしい性格を持つことを差し引いても、日本の信者の方々はお坊さんに対しずいぶんと遠慮しているように感じます。そして、その原因の大半は私たちお坊さんの側にあるのだとNY本願寺にお参りをして改めて痛感しました。NY本願寺では礼拝の後、参加者全員でお茶と軽い昼食をとりながら談笑します。そして中垣住職はそのゆるやかな雰囲気の中で改めて、丁寧に、そしてやさしく教えを説き直します。そんな場がここ宝泉寺にもあればなあ、そんな雰囲気が皆さんとともに作れたらなあ。帰国してから一ヶ月が過ぎた今もそのことばかりを考えています。

第11回 大般若会

5月30日(土)午後2時 の予定です。

NPO 法人

颯の扉バザー

3月20, 21日

10時~4時

宝泉寺境内

春秋のお彼岸にお邪魔するようになり5年になりました。今回は土曜日にも開かせていただきます。また献品も随時お受け致しております。

編集後記

- ・暖冬になれてしまった体は時折やってくる寒波に身がふるえてしまい、なにごとにもなれ切ってしまうことの危うさを知らせてくれる。献金事件、議員活動にはお金がかかる、だからもらって当たり前の神経はただけでない。
- ・先日の雨の日、社会保険事務所へ行ってきた。こんな時だからすいているだろうと思ったのだが一時間待ち、わかってはいたけど示された金額を見てため息が出てきた。
- ・境内の一角、カタクリの花が咲き出した。だいが前、いただいた数株から毎年ごくごくわずかであるが、着実に増えている。花を咲かせるまで8年かかるそうで、だからこそひときわ美しく誰をも引きつけてしまうのだ。

Mar.16.2009(琴)